

## 令和 5 年度 【 学園研究費助成金 &lt; B &gt; 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ ヒグチ ケンイチロウ  
氏名 樋口 謙一郎

研究期間 令和 5 年度

研究課題名 北部タイ山地民の言語消滅危機の形成過程に関する研究

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	樋口謙一郎	文化情報学部	教授

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

現代タイをめぐる政治的、経済的、社会的、文化面での変化が、山地民の持つ消滅危機言語の維持にいかなる影響を及ぼしているかとの問題意識に基づき、主にチェンマイ北部を居住域とする山地民（山岳民族）の言語を消滅危機へと向かわせる諸要因とプロセスを、主に文献調査と聞き取りにより、可能な限り具体的に詳らかにすることを目指す。危機の「諸要因」については歴史的、政治的な要因だけでなく、スマートフォンの普及やコロナ禍など、今日的な要因とそのインパクトにできるだけ焦点を当てる。消滅危機言語研究は話者へのアプローチがそもそも容易ではないため、本研究ではまず話者への聞き取りなど基礎的な（地道な）取り組みを積み重ね、今後の研究基盤の充実、応用・比較研究へとつなげたい。

## 2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

- ・基本的な先行文献の収集と精読。当該分野に関する言語政策研究の日本語文献はすでにかなり収集したが、山地民の個別の言語群についての文献の精読は未着手であるため、知己の研究者の協力を得て、これを進める。
- ・山地民博物館（チェンマイ）における基礎資料収集、チェンマイ北部の山地民集落における実地調査。特に近年において、山地民に対するタイ内外からの生活・教育支援拡充、山地民の「平地」での活動増加、「先住民」意識の拡大、IT 普及、コロナ禍などが、固有の言語の使用や世代間の意思疎通にいかなる影響を及ぼしたかを調査する。
- ・以上の方法により得られた情報を整理し、論稿を執筆するとともに、学会発表などを通じて外部研究者のフィードバックを受ける。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

タイ北部の山地民(山岳民族)が有する言語が消滅危機に陥っている状況において、現代タイをめぐる政治的、経済的、社会的、文化面での変化が、山地民の持つ言語の維持にいかなる影響を及ぼしているのか、という点を主たる問いとして研究調査を進めた。

特に、山地民に対するタイ内外からの生活・教育支援の拡充、山地民の「平地」での活動の増加、「先住民」意識の拡大、IT普及、コロナ禍などの影響について、チェンマイ、ウドーンターニー、ウボンラーチャターニーなどで実地調査を試みた。また、タイ北部山地民に関する研究に際しては、国境に由来する限定・制約が少ない方が望ましいと考えるに至り、ミャンマー、ラオスにおける研究基盤形成にも努めた。そのほか、研究と社会貢献の接点を求める意味から、山地民に対する教育支援活動(NPOなど)の現況について、関係者との意見交換などを実施した。

現在、消滅危機言語の維持と活性化の促進およびその研究深化に向け、地域住民、教育者、政策立案者、メディアとの今後の協働の可能性も模索しており、来年度以降のできるだけ早い時期に、内外の研究者と協力して国際会議を開催したいと考えている。

研究成果の具体的な内容については、年度内の速報として、日本比較文化学会中部支部例会において部分的に報告し、現在、それに基づいた論稿を執筆中である。将来的には、本研究の成果をもとに外部研究資金の申請を目指し、また、研究成果を本学の教育(特にPBL)にも活用していきたい。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①タイ北部	②山地民	③山岳民族	④言語消滅危機
⑤言語政策	⑥	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

(学会発表) 樋口謙一郎「北部タイ山岳民族と消滅危機言語」日本比較文化学会中部支部例会、椋山女学園大学、2022年2月25日

(その他) 樋口謙一郎「人文学者と行く、山岳民族の村」、『WOM Bangkok』(特集寄稿) 2023年10月号、メディアプレスト